

針刺し防止機構付き止血弁内蔵透析用留置針

ハッピーキャス ProFlex

- フルカバータイプのセーフティ機能
- 一時離脱が可能な多数回型止血弁
- 血液が見やすく、保持しやすいフレックスチューブ



針刺し防止機構付き止血弁内蔵透析用留置針

ハッピーキャス ProFlex

- 刃面にバックカット加工を採用
特有の切り口による切れ味の良さを実現
- フレックスチューブ
血液が見やすく保持しやすい
医療用テープが付きやすい素材
- 多数回型止血弁内蔵カテーテルハブ
圧迫止血が不要、一時離脱する際にも有用
- ポリプロピレン製カテーテル
側孔付きのカテーテル表面には潤滑性を向上させる“Kコート”を塗布しています。
- 針先保護キャップ
パッシブセーフティ機構で自動的に針先を保護
- 伸長性スリーブ
内針表面に付着した血液の曝露を予防
- 逆血確認チャンバー

紹介動画は
こちらから



| 製品コード | 品番 | 外径/内径 | カラーコード | 有効長 | 側孔 | 滅菌方法 | JANコード | カテーテル材質 |
|--------|-----------------------------|--------|-----------|------|----|-------|---------------|---------|
| HP2626 | EB 15G 4HVC×1・1/2"(ProFlex) | 15/17G | ブルーグレー | 38mm | ○ | 電子線滅菌 | 4543527252898 | ポリプロピレン |
| HP2627 | EB 15G 4HVC×1・1/4"(ProFlex) | | | 33mm | ○ | | 4543527252904 | |
| HP2628 | EB 15G 4HVC×1"(ProFlex) | | | 25mm | ○ | | 4543527252911 | |
| HP2623 | EB 16G 4HVC×1・1/2"(ProFlex) | 16/18G | ホワイト | 38mm | ○ | | 4543527252867 | |
| HP2624 | EB 16G 4HVC×1・1/4"(ProFlex) | | | 33mm | ○ | | 4543527252874 | |
| HP2625 | EB 16G 4HVC×1"(ProFlex) | | | 25mm | ○ | | 4543527252881 | |
| HP2620 | EB 17G 4HVC×1・1/2"(ProFlex) | 17/19G | レッドバイオレット | 38mm | ○ | | 4543527252836 | |
| HP2621 | EB 17G 4HVC×1・1/4"(ProFlex) | | | 33mm | ○ | | 4543527252843 | |
| HP2622 | EB 17G 4HVC×1"(ProFlex) | | | 25mm | ○ | | 4543527252850 | |

販売名: ハッピーキャス V 一般名称: 透析用留置針 クラス分類: II 医療機器認証番号: 21400BZ200343000 入数: 50本/箱

ご使用前に製品の電子添文を確認の上、記載されている説明に従って正しく使用してください。



販売元: メディキット株式会社 〒113-0034 東京都文京区湯島1-13-2 TEL.03-3839-0201
 製造販売元: 東郷メディキット株式会社 〒883-0062 宮崎県日向市大字日知屋字亀川17148-6 TEL.0982-53-8000
 営業所/東京・札幌・仙台・埼玉・千葉・八王子・横浜・金沢・名古屋・京都・関西・神戸・広島・松山・福岡・宮崎
 流通倉庫/宮崎県日向市・千葉県佐倉市
<http://www.medikit.co.jp/>
<http://www.togomedikit.co.jp/>

血液曝露防止 ◀◀ 2つの安全機能 ▶▶ 針刺し防止

血液が見やすく、保持しやすいフレックスチューブ付カテーテルハブ



チューブ無し
(止血弁のみ)

血液が止血弁まで到達したことを確認しやすい、視認性の高いチューブを採用



フレックスチューブ付きのカテーテルハブで回路接続の手技をサポート



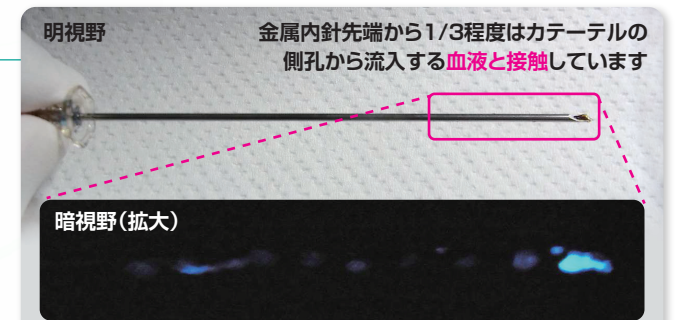
医療用テープが付きやすく剥がれにくい素材を使用

針刺し防止機構



フルカバースリーブ

内針表面に付着した血液の曝露も防ぐ、パッシブタイプの安全機構



明視野

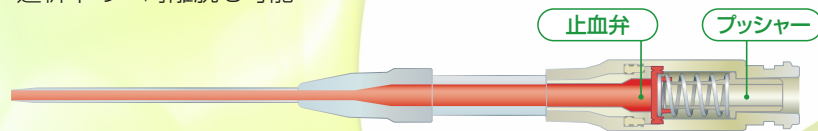
金属内針先端から1/3程度はカテーテルの側孔から流入する血液と接触しています

暗視野(拡大)

* 穿刺後の透析用留置針(当社製、クランプタイプ)を用いて内針全体ヘルミシール試薬を噴霧し、明視野/暗視野にて撮影

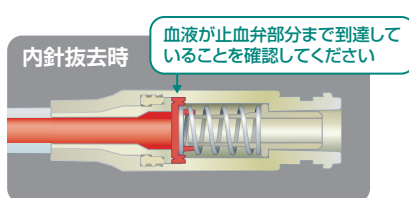
多数回型止血弁機構

止血弁をカテーテルハブに内蔵。多数回型止血弁の採用により圧迫止血や鉗子を用いたクランプ操作が不要、透析中の一時離脱も可能

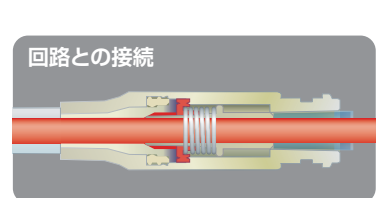


止血弁

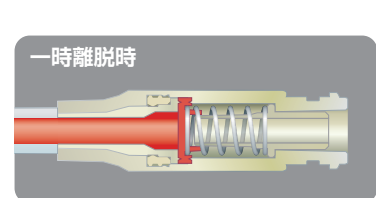
プッシャー



内針を抜去すると止血弁が閉じて血液漏れを防ぎます。



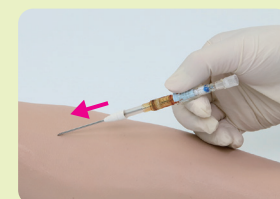
回路を接続するとプッシャーが止血弁を開放し流路が開通します



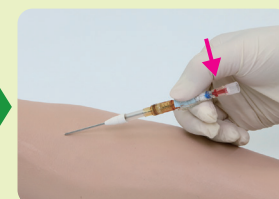
回路を外すと止血弁が再び閉じて自動的に止血します。

使用方法

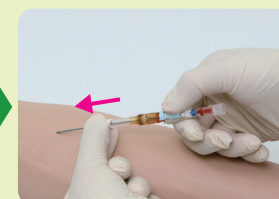
※ご使用前に電子添文をご確認ください。



穿刺部を消毒し、ハブを持って穿刺します。



逆血を確認したら針を覆かせて1-2mm進めます。



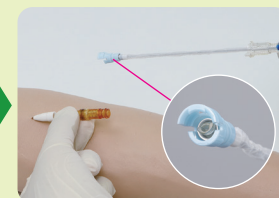
外周針を必要な深さまで送り込みます。



カテーテルハブを保持して内針をまっすぐ引きます。止まるような抵抗を感じるまで引いてください。



内針を全て引いたら、内針全体を上を持ち上げるようにしてカテーテルハブから外します。



自動的に安全機構が作動し、内針全体がカバーされます。



血液が止血弁に到達したことを目視で確認してから、回路接続を行ってください。



回路接続の際はオスコネクターをしっかりとねじ込み、その後にロックナットを締めます。